中信教育事務所生涯学習課だより

# マナビィつうしん

“対話”で未来につなげる
チーム生涯！

Facebook

第41号　令和6年1月9日（火）

# 「多世代が関わる地域と学校づくり」

## ～「やってみたい！」から始まる協働活動～

（R5学社連携・協働フォーラムテーマより）

学社連携・協働フォーラムを 11 月 25 日(土)に開催しました。昨年度に引き続き参集開催(研修1のみYouTube 限定配信)としました。当日は寒い中でしたが、総合教育センターに約 100 名の方にお集まりいただき、会を盛り上げていただきました。当日の研修1・研修2の様子や寄せられた感想をご紹介します。

## 研修１　「若者からみた子ども・学校・地域」

### ①大学生による各種プロジェクトの発表

信州大学 各種プロジェクト　参加大学生のみなさん

研修1の前半では、コミュニティスクールの取り組みや地域の活性化に取り組んでいる信州大学の学生のみなさんから、取り組み内容や、活動に携わってきた思いなどを発表していただきました。

**【あさひカフェ】**　　信州大学人文学部3年　奥村　和(おくむら　なごみ)さん

≪あさひカフェとは？≫『子どもたちが地域の多様な人たちと日常的に関わり、希望や願いに自主的に「挑戦」できる場所』を基本方針として、松本市立旭町小学校で毎週水曜日の2時間目休みに空き教室を使って、地域ボランティアが遊びを提供している。

**【今後この活動に必要になってくると思うこと】**

**〇子どもスタッフの活躍**

高学年児童がスタッフとして参加し始めた。遊びを教えたり、ルールを考えたりしている。

**〇多くの先生方との関係**

いろいろな先生方と意見交換して、あさひカフェの目的を共有し、よりよい活動に向けて話し合いたい。

**〇コミュニティスクールの活動をしている人同士の交流**

他校のボランティアの人たちと情報交換や交流をして活動の幅を広げたい。

**【なぜ自分がボランティアに関わっているのか】**

〇子どもたちが喜びそうなことを考えることや、あさひカフェに期待している子どもたちに応えることが面白い。

〇地域の人や先生との話が勉強になる。

〇子どもたちとの関わり方やボランティアに対する考え方など自分の成長が感じられる。

〇自分の意見を聞いてくれる地域の人や先生がいて、「まずはやってみよう」と活動の後押しをしてもらえる。

## 【生坂村学習支援】（地域未来塾）信州大学工学部1年　平山　嵩真（ひらやま　しゅうま）さん

≪**地域未来塾とは？**≫大学生や教員OB等の地域住民の協力で、学習習慣の確立や基礎学力の定着のため、放課後などに子どもたちの学習を支援する取組み。

・土曜日及び長期休業中　　約2時間

・対象：生坂中学校に在籍し、学習を希望する中学生（現在12名が登録）

・大学生ボランティアの登録：5名

**【生徒の目線から見た地域未来塾のよさ】**

**〇集中できる環境での学習**

生坂村B＆G海洋センターを使い、広々と部屋で学習できる。

**〇他者との交流**

生徒数も少なく、村内に商業施設もあまりない。中学生にとって、大学生との交流がよい刺激になる。

**【ボランティアに携わって感じたこと】**

〇大学の講義（教職課程）でインプットしたことを生徒に対して学習支援をすることでアウトプットできる。

〇教えることの楽しさと難しさを感じている。うまく伝わらないことや、思いがけず伝わることがある。
参加している大学生同士で情報交換する中で、同じ問題でも人によって教え方が違うことがある。生徒に対して教え方を工夫しているし、生徒によって伝わり方がちがうことも感じている。
工夫をして伝わったときの喜びはとても大きい。

## 【松本国宝の架け橋プロジェクト】　信州大学地域参画サークル　CHANGE（チェンジ）

今回「松本国宝の架け橋プロジェクト」に関わる５人のメンバーが参加してくれました。

≪**CHANGE とは？**≫松本市を中心に若者と地域をつなげる活動を行っている信州大学のサークル

≪**松本国宝の架け橋プロジェクトとは？**≫

松本市が策定した「松本城三の丸エリアビジョン」のプロジェクトの1つ。
開智学校と松本城の2つの国宝をつなぐ場を活性化。
空き地を利用し、交流拠点「タカノバ」を建設。
CHANGEは、月1回のタカノバ運営会議に参加。住民との意見交換。
9月16日（土）タカノバオープニングイベントの企画
10月28日（土）CHANGE主催のハロウィンイベント開催。

**【2つのイベントを通して学んだこと】**

〇準備の難しさ（当日の参加人数の予測・物品の準備等）　　〇多くの大人との情報共有の難しさと会話の楽しさ

〇子どもたちの喜ぶ顔がうれしい。　　〇外部団体との綿密なやりとりが円滑な運営につながる、という実感

〇予期せぬ事態（雨天等）に備えた準備と臨機応変な対応の必要性

〇初めての主催のイベントを成功させることができたことによる自信がついた。

**【活動を通して感じたこと】**

〇世代や職業が違う地域の人たちとの会議での意見の食い違いもあったが、多世代で語ることで大学生だけでは出ない視点がたくさん得られた。県外から来た学生を地域の人たちが受け入れてくれたことが嬉しかった。
意見をたくさん交わすうちに地域の人たちとの会話を楽しめるようになった。

〇地域の活動は参加してみないと分からないことが多い。まずは若者が情報をキャッチして活動に参加していくことが大事。若者だからこその意見もあるし、経験を積んだからこその大人のフォローがありがたかった。

## ②リレートーク

**信州大学教職支援センター　准教授　荒井　英治郎　さん**

**あさひカフェ：奥村　和さん　生坂村学習支援：平山　嵩真さん　CHANGE：古屋　隼（ふるや　しゅん）さん**

信州大学の荒井先生から、3つの活動に参加している大学生の皆さんに様々な質問をしていただき、より深く思いなどを聞いていただきました。その中から一部を紹介します。

思っていたのと違う、期待していたのと違う、ということはありましたか？

【荒井先生】

【奥村さん】

思っていたのとは違ったのは、私が改善したいと思ったことを話すと、地域のみなさんや先生方がすぐに対応してくれるところです。自分の意見が通る通らないはともかく、一度検討してもらえるところが、ボランティアとして行きたいと思える部分かな、と思います。

【平山さん】

声掛けを大切にしている、というところが思っていたのと違うところです。生徒が質問してそれに答えることが多いと思っていたけれど、大学生側から声をかけてそこから新しい疑問が出てくる場面も多くあり、ちょっとびっくりしました。

【古屋さん】

始めはイベントをわいわいできる、と楽観的だったけれど、お金のことや準備など大変でした。大人の人たちと関わるときに失礼がないか、と考えたりして、思った以上に気をつかいました。地域コミュニティに大学生が入っていけるか不安だったんですけど、意外にも地域の輪の中に快く受け入れてもらえて嬉しかったです。

やりがいについてはどうですか？

地域の人たちと一緒に考えて、案を出し合い、みんなで決めてみんなで動いていくことで、団体の中で自分が生きている、という実感が持てます。それが一番のやりがいです。

同じ生徒と何回か学習することで、今までできなかったことができるようになったり、学習が身についてきたりしていることを一緒に喜ぶことができ、やりがいを感じます。

イベントを企画して、そこに参加する人たちが喜んでくれるのが一番のやりがいだと感じています。学校では実践の場が少ないので、学生ながらも大人の力も借りながら1つの企画をやり遂げた、というのは大きな達成感がありました。

今後の見通しや展望、やりたいことなど聞かせてください。

あと１年半しか関われないので、その間にどこまで持続可能なものにできるか考えたいと思います。公民館と学校と地域がうまく関わっていける形になればいいなと思っています。信州型コミュニティスクールに興味があり、将来は教員になって、地域連携の活動に関わった経験を活かしたいと思います。

来年度は長野市のキャンパスになるので、そちらから通える小川村の学習支援に関われるといいなと思っています。教員免許を取るつもりですが、研究の方に進むか、教員になるかはこれから考えて決めていきたいと思います。

CHANGEの展望としては、イベント活動や新たなプロジェクトを通して少しでも暮らしやすい町にできていければいいなと思います。自分としては、空き家や空き地の問題に発展していけるような企画を考えたいです。さらに未来のことを言うと、行政からの提案だけではなく、住民のわがままから動くプロジェクトを作っていけるといいなと思っています。

☆荒井先生のまとめより

〇３人とも県外出身者。若者にとって「地域」のとらえ方がこれまでと変わってきている。

「地域＝行政区・町会」ではない。その地域に住んでいるから活動する、というわけでもない。

その地域に学びの要素やわくわくするものがあるから、そこに人が（大学生）が集まってきている。

〇逆に考えて・・・若者は、どういう場合に参加したくないのか

【不安感・不信感】
【他律的な場（上からの押し付け）】
【当事者意識が持てない】

⇔

【安心感（聞いてもらえる）】
【達成感・充実感（うまくいかなかったことも含めて）】
【責任感】

**地域に若者の参画を促し、充実感をもってもらうためには、この３つことが大切**

〇若者も含めて、多世代が混ざってみんなで同じ目的に向かって新しいものを地域に作っていく。

☆参加者の感想

今日の発表を聞いて他にもやれそうなことがある。思いつかなったアイディアなど刺激をたくさんもらった。（ＰＴＡ）

大学生のみなさんがそれぞれの熱い思いをもって活動に取り組んでいる様子と学校・地域の視点から伺うことができ、大変エネルギーをいただいた。（学校職員）

学生が自主的に参加・参画している姿があり、「自分が大学生の頃、こんなことしてなかったなぁ」と反省した。日本の将来も明るいかなと感じた。（コーディネーター）

## 研修２　ワークショップ　「あなたの『やってみたい！』で未来が変わる!!」
## ラベルワーク・ランキング体験

テーマを**『地域や学校で若い人たちと一緒にやってみたいこと』**とし、小グループでワークを行いました。

**①ラベルワーク**：一人ひとりやってみたいことをふせんに書き、模造紙に貼りながらグループ分けをする。
**②ランキング**：グループ分けしたものを、どれから取り組めば実現できるか個人で順位付けし、発表し合いながら、グループとしての順位付けをする。（なぜその順位にしたのか、理由を聞き合うことが大事！）

様々な立場の人たちと意見を交わす楽しさと相手の意見をよく聞くことの大切さ、考えをグループでまとめていく難しさを味わっていただきました。

他の意見を聞くのは本当に楽しい。そんな考えもあるんだーって自分ではたどり着かないことが見えてよかった。（ＰＴＡ）

１つのテーマや目標に向かう世代や立場を超えた一体感を感じることができた。（学生）

多世代や様々な立場の方との交流が実に有意義だった。地域を盛り上げたい気持ちは、私たちや学生さんたちにも備わっていることにうれしく思います。（公民館職員）

人が集まるのは実は簡単かつシンプルで楽しいかどうかなんだよなぁと当たり前のことに気づくことができました。人が少なくなる地域にある学校にとってすごく大切なヒントになった。（学校職員）

今回のフォーラムは、大学生9名に参加していただき、若者のリアルな声を聞くことができました。ワークにも大学生に参加していただいたので、さらに思いを聞くことができた方も多かったと思います。地域と学校、保護者、行政の協働活動を持続可能なものにしていくために、若者の力は欠かせません。今回のフォーラムが「若者と一緒に活動してみたい！」という一人ひとりの「やってみたい」につながるきっかけとなることを願っています。